

CASBEE京都-新築(2015年版)
新定時制単独高等学校施設整備工事 ただし、新校舎確保が建屋主体その他工事

■使用評価マニュアル CASBEE 京都-新築 (2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音					3.0	0.17	-	-	-	3.0
1.2 遮音					3.0	0.40	-	-	-	
1 開口部遮音性能					3.0	0.43	-	-	-	
2 界壁遮音性能					3.0	0.24	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	0.16	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	0.16	-	-	-	
1.3 吸音					3.0	0.20	-	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御					3.0	0.50	-	-	-	
1 室温					3.0	0.58	-	-	-	
2 外皮性能					3.0	0.35	-	-	-	
3 ゾーン別制御性					3.0	0.07	-	-	-	
2.2 湿度制御					1.0	0.20	-	-	-	
2.3 空調方式					3.0	0.30	-	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用					3.4	0.20	-	-	-	3.4
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)	昼光率:2.0%以上		3.6	0.30	-	-	-	
2 方位別開口					4.0	0.60	-	-	-	
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)			3.0	0.40	-	-	-	
3.2 グレア対策					4.0	0.30	-	-	-	
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)	カーテン、庇を組み合わせた昼光制御		4.0	1.00	-	-	-	
3.3 照度					3.0	0.15	-	-	-	
3.4 照明制御					3.0	0.25	-	-	-	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策					4.3	0.27	-	-	-	4.3
1 化学汚染物質			内装材はほぼ全般的にF☆☆☆☆を使用、他VOCも放散量の少ない建材を使用		5.0	0.50	-	-	-	
2 アスベスト対策					5.0	1.00	-	-	-	
4.2 換気					3.5	0.30	-	-	-	
1 換気量					3.0	0.36	-	-	-	
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)	居室面積の1/10以上の自然換気有効開口面積を確保		5.0	0.28	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.36	-	-	-	
4.3 運用管理					4.0	0.20	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	0.50	-	-	-	
2 喫煙の制御			全館禁煙		5.0	0.50	-	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	-	-	-	3.0
1 広さ・収納性					-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)			3.0	1.00	-	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観	●とも	C(独自加点)			3.0	0.41	-	-	-	
2 リフレッシュスペース					-	-	-	-	-	
3 内装計画	●自然	D(独自基準)	地域産木材の使用・パースによる内装計画		3.0	0.59	-	-	-	
1.3 維持管理					3.0	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	-	
3 衛生管理業務					-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震					3.0	0.30	-	-	-	3.0
1 耐震性					3.0	0.80	-	-	-	
2 免震・制振性能					3.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)			3.0	0.20	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.20	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な配管の2種にB以上を使用		5.0	0.20	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-	-	

2.4 信頼性					2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり					3.5	0.30	-	-	
1	階高のゆとり				3.0	0.49	-	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率<0.3	4.0	0.51	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	地域性への配慮、快適性への向上がレベル5	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	京都市域産木材の使用	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.68	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	クール・ヒートピット、ハイサイドライトを設置	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.70 住宅(専有部) -	4.0	0.50	-	-	4.0
				太陽光発電設備の設置	4.0	1.00	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
					3.0	1.00	-	-	
					3.0	0.50	-	-	
					3.0	0.50	-	-	
					3.0	-	-	-	
					3.0	-	-	-	
					3.0	-	-	-	
					3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護					3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水				自動水栓、節水型トイレの使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.7	0.60	-	-	
1		●自然	A(全国版準用)	雨水再利用槽の設置	4.0	0.70	-	-	
2					3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	再生クラッシュラン、地域産木材、吸音材を使用	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	可動間仕切りの設置	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1					-	-	-	-	
2					3.0	0.50	-	-	
3					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				LCCO2排出率=83%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮					2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25	-	-	
1					3.0	0.25	-	-	
2					3.0	0.25	-	-	
3					3.0	0.25	-	-	
4					2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1					3.0	1.00	-	-	
2					-	-	-	-	
3					-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					2.6	0.40	-	-	
1					3.0	0.62	-	-	
2					1.0	0.16	-	-	
3					3.0	0.22	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1				チェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明を設置しない	5.0	0.70	-	-	
2		●とも	B(推奨内容)	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる